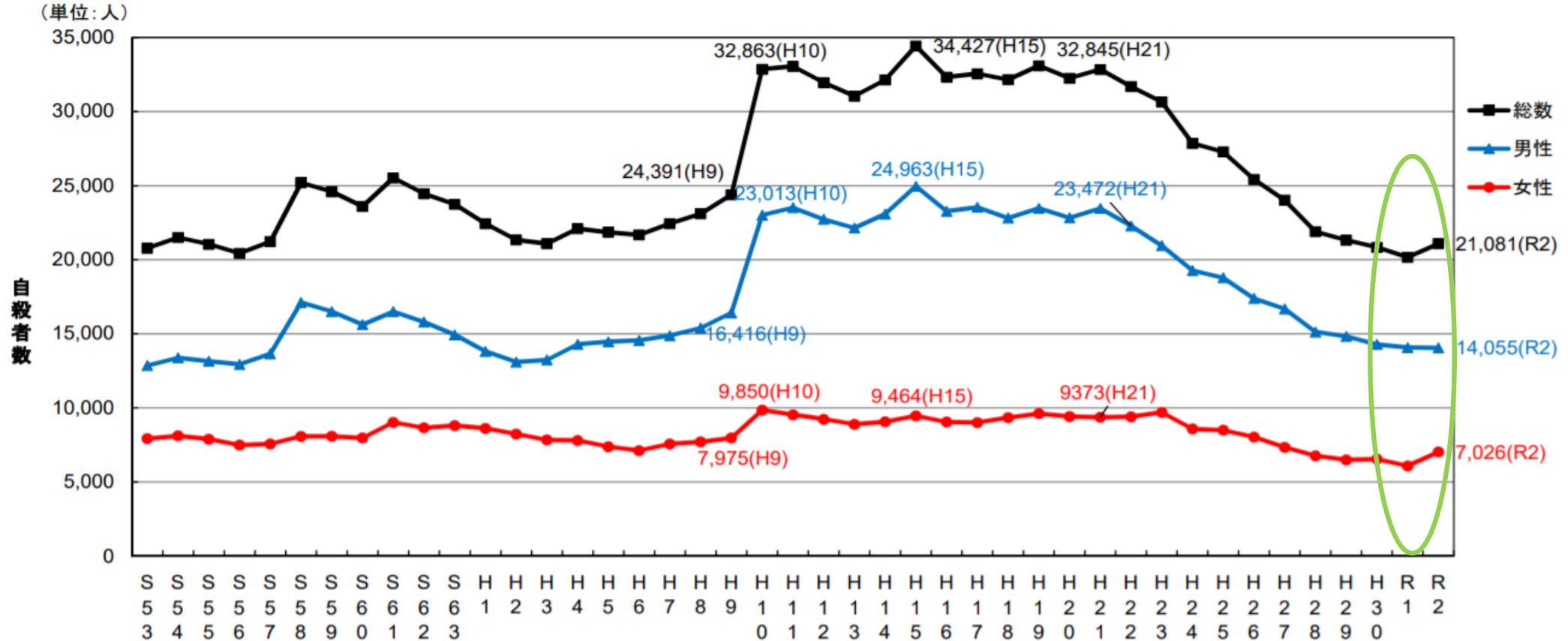


日本財団子ども生きていく力サポートプロジェクト (若年層への自殺対策)

日本財団子どもの生きていく力サポートプロジェクト（若年層への自殺対策）

自殺者数の年次推移（R2年度）



資料: 警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

日本財団子どもの生きていく力サポートプロジェクト（若年層への自殺対策）

第4回 自殺意識調査における10のファクト

（調査期間：2021年4月9日（金）～13日（火）、有効回答数：20,000人）

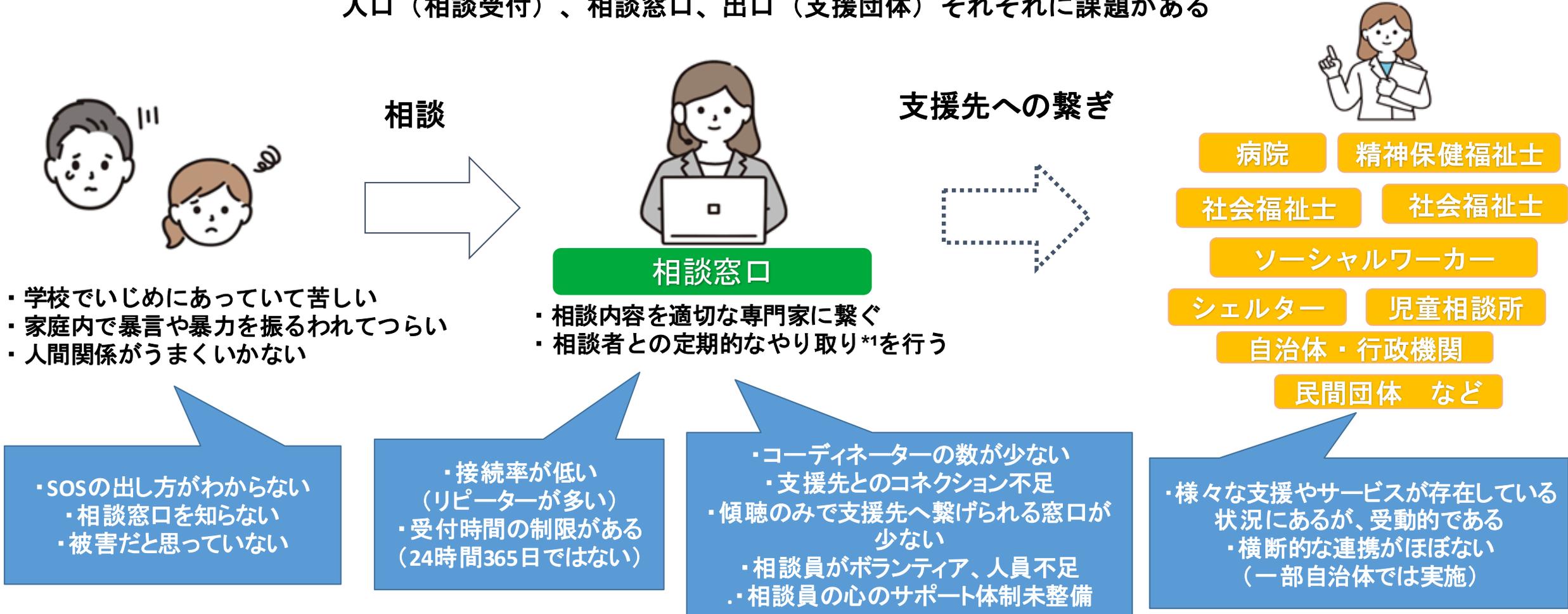
10のファクト



日本財団子どもの生きていく力サポートプロジェクト（若年層への自殺対策）

悩み相談窓口のプロセスにおける課題

入口（相談受付）、相談窓口、出口（支援団体）それぞれに課題がある



日本財団子どもの生きていくカサポートプロジェクト（若年層への自殺対策）

○ターゲットとなる年代 10代の子どもたち

○求める事業

- ・SOSを上げる教育支援
- ・若者に訴求できる手段を用いた相談窓口事業
- ・相談者の伴走支援事業
（自治体、ソーシャルワーカー、精神心理士等の専門職等につなげ、原因となる課題解決へ向けて取り組める）
- ・ゲートキーパー研修

※これら一連で活動している場合も想定

○採択の可能性が高くなる事業

- ・統計や先行研究、調査等の客観的根拠に基づいて事業背景が整理されている事業
- ・課題設定が明確で、その解決手段となる事業内容との整合性が取れている事業
- ・事業実施による効果が、具体的に設定されており事業実施後に検証可能である事業
- ・事業の実現性に根拠が認められる事業

○採択が難しい事業

- ・目的が既存の機器類の買い替えに留まる事業
- ・モデル事例として普及が期待できない事業

日本財団子どもの生きていくカサポートプロジェクト（若年層への自殺対策）

○これまでの主な支援実績

インターネットを活用した若者自殺対策

専門職向けゲートキーパー研修事業

若者自殺・うつ予防モデル構築と運用

子どもの自殺ハイリスク者支援モデル構築事業

自殺ハイリスク者対応のための専門家による危機対応事業



日本財団DIVERSITY IN THE ARTS (障害者の芸術活動支援)

「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS」

既成の形式にとらわれない多彩な企画、
積極的かつ横断的な情報発信を通じて多様性の意義と価値を広く伝え、
越境や交錯、交歓の喚起を目指す新たなプロジェクトです。

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS（障害者の芸術活動支援）

○求める事業

- ・ 作品の制作活動に留まらず、活動や作品がこれまで「障害」「障害のある方々」とは関りがなかった人たちにも周知出来る事業
- ・ 地域コミュニティに開かれた事業
(実施団体内で完結しない)
- ・ 成果が明確となること

○採択の可能性が高くなる事業

- ・ 当事者が主体的に参画する機会を提供している事業
- ・ 非独占的である事業
- ・ 事業実施による効果が、具体的に設定されており
事業実施後に検証可能である事業
- ・ 事業の実現性に根拠が認められる事業

○採択が難しい事業

- ・ 単純な継続事業である（申請以前から継続実施している展覧会の開催等）
- ・ 新型コロナの影響を全く考慮していない事業
- ・ 特定の障害がある作家のみの作品を対象する事業
- ・ 開催形式にアクセシビリティへの配慮と積極性が認められない事業
- ・ 目的が既存の機器類の買い替えに留まる事業
- ・ モデル事例として普及が期待できない事業

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS (障害者の芸術活動支援)

○これまでの助成実績

障害者アートの製品化に関するモデル開発事業
障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくり
障害児・者アートサポーター養成・派遣
まちづくりと障害者アートフェスティバル、など

